



焼損した旧モーガン邸、玄関部分が残る(写真 米山淳一)

旧モーガン邸の再建に踏み出す

2020年9月30日の当公益社団の臨時理事会で、旧モーガン邸(藤沢市大鋸)を当公益社団が取得し、再建する決定がなされました。これは、旧モーガン邸を保存している公益財団法人日本ナショナルトラストからの正式な申し出に応えたものです。

旧モーガン邸は、1931年(昭和6)頃、藤沢市大鋸に建てられた建築家 J.H. モーガンの自邸です。敷地は約2000坪。横浜市戸塚区との市境から約500m西側の藤沢市大鋸に位置します。長年、横井英樹氏(日本産業社長)の所有でしたが、負債の代償として整理回収機構が売却物件としていました。2004年に財団法人日本ナショナルトラスト(以下JNT)が自邸と敷地の約3分の1、藤沢市が敷地の約3分の2を取得し保存に至りましたが、その後2007年と2008年の2回の不審火により自邸等は焼損してしまいました。

JNTは自邸等が焼損したことで、旧モーガン邸の文化財的価値は無いと判断し、再建を行わないことを決めました。この決定に藤沢市もNPO法人旧モーガン邸を守る会(以下NPO)も困惑。以来、旧モーガン邸世話人会(メンバー藤沢市、JNT、NPO)でも再建は、大きな課題となっていました。業を煮やしていたNPOは、旧モーガン邸世話人会において公益社団法人横浜歴史資産調査会(以下YHG)の存在を紹介。これを受けてJNTは世話人会で、YHGに所有する土地と保険金の一部を寄付し、再建を託したい旨の意志を示しました。これを受けてYHGは、再建を目指した学術調査(委員長水沼淑子・当公益社団理事)を行い、再建、活用計画報告書をまとめJNTや藤沢市に提出しました。

現在の旧モーガン邸は玄関廻りを残し焼損状態のままですが、雨風から自邸を守る目的でJNTは、簡易的な上屋を設けています。JNTと藤沢市の間では、JNTが自邸等と敷地全体を一体管理する契約を結んでいて、日常管理(建物、庭等)はJNTからの委託でNPOが行っています。焼損後もNPOが渾身を込めて行ってきた日常管理や各種イベントの開催が功を奏し、旧モーガン邸の存在価値は広く知られ湘南地区の邸宅文化の拠点としての重要性がますます高まっています。

このような状況を礎にYHGは、NPO、藤沢市と力を合わせて旧モーガン邸の再建に向けて踏み出すことになりました。

かつてJ.H. モーガンは、横浜市に事務所を構え、横浜山手聖公会聖堂、111番館、ベーリック・ホール、外国人墓地正門、根岸競馬場馬見所ほか多くの作品を世に送り出しました。自邸は藤沢市ですが、横浜ゆかりの建築家として大いに尊敬するものであります。旧モーガン邸と市境を挟んだ至近の横浜市戸塚区俣野には、旧住友家俣野別邸(横浜市所有)があります。こちらも不審火で焼損したのち横浜市が再建し、旧モーガン邸と連携した活用が望まれています。地域一体の活性化に大きく寄与することを目的に再建事業に挑みたいと思います。

11月28日(土)の「再建シンポジウム」をスタートとし、募金活動、イベントの開催など、より活発な活動を推進して参りますので、皆様の多大なるお力添えとご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和2年11月吉日
公益社団法人横浜歴史資産調査会
会長 宮村 忠

Jay.H.モーガンとその自邸について

公益社団法人横浜歴史資産調査会理事・関東学院大学名誉教授 水沼 淑子

Jay.H.モーガン、この建築家の名前を知っているという方は、多くないかもしれません。開港以降、多くの外国人建築家が横浜に作品を残しました。プリジェンス、コンドル、サルダ、デ・ラランデ、レーモンド、ヴォーリスなど名だたる建築家です。モーガンもその一人です。モーガンは、今からちょうど100年前1920年（大正9）に来日したのち、1937年（昭和12）年に日本で世界するまでわずか17年間の日本での活動の中で、多くの名建築を横浜に残しました。

◆モーガンの来歴

モーガンは、1868年、ニューヨーク州バッファロー市に生まれました。その後、ミネソタ州で建築学を修得し、ニューヨーク市をはじめアメリカ各地で旺盛な設計活動を行ったのち、1920年、フラー建築株式会社の日本進出に伴い設計技師長として来日し、フラー建築株式会社が日本で手がけた東京丸の内ビルディング（通称丸ビル）や、日本郵船ビルの実設計に携わりました。丸ビルの設計は三菱合資会社地所部の建築家桜井小太郎が担当しましたが、フラー会社も日本進出に際しアメリカから建築家を連れてきていたのです。日本で仕事を展開するためには自前の建築家が必要だったからです。それが、モーガンでした。

モーガンはアメリカ時代にすでにフラー会社の仕事を多数担当しており、豊かな経験と確かな技術を持ったモーガンに白羽の矢が立てられたのです。

モーガンは、1922年（大正11）フラー建築株式会社から独立し、東京丸ビル内に設計事務所を開設しますが、1926年（大正15）には横浜に事務所を移しました。

モーガンが日本に永住することになった理由のひとつは、日本人女性石井たまの存在です。たまはモーガンの事務所の秘書でもありました。英語を話す闊達な女性だったたまとモーガンは、東京駅のステーションホテルで偶然出会い、生涯を共にすることになります。二人の生活の場として建築されたのが藤沢市大鋸に所在する自邸でした。



モーガン自邸

◆日本におけるモーガンの建築作品

日本におけるモーガンの仕事は大きく四つに分けられます。

一つ目は、横浜の外国人コミュニティにおける公的な建築。横浜のアメリカ領事館や根岸競馬場馬見所（一部現存）、ヨコハマ・カントリー・アンド・アスレチッククラブ（YC&AC）（一部現存）など、二つ目はミッション系の建築で、横浜山手聖公会聖堂（現存）、関東学院校舎群、東北学院大学校舎群（礼拝堂および本館が現存）、松山女学校校舎群（校門のみ現存）など、三つ目は、オフィスビルで、ニューヨーク・ナショナル・シティ銀行横浜支店やチャータード銀行横浜支店・同神戸支店（現存）など、そして最後が日本に在住する外国人の住宅です。ラフィン邸（現存・現 111 番館）、ペーリック邸（現存・現ペーリック・ホール）などになります。



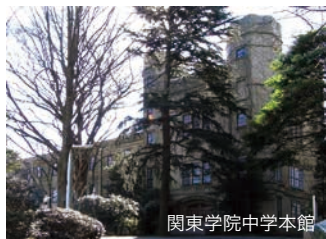
モーガン自邸内部（創建時）

モーガンの作風は極めて多彩です。古典主義や、中世城郭風の意匠、スパニッシュ様式など、施主の希望や建築の用途に応じて自在に様式を選択し、かつ、時代の要求に合わせた構法や設備などを用いて建築を総合的に実現していく技術はアメリカで培ったものであり、アメリカの先端を日本に持ち込んだともいえるでしょう。

モーガンの作品年譜を見ると、決して多作ではないものの極めて順調に仕事をしてきた様子が伺えます。モーガンの人柄によるところも大きかったのでしょう。

モーガンは自ら進んで建築士会に入会した初めての外国人とされています。逝去の際には建築士会の機関誌「日本建築士」に追悼文が掲載されました。桜井小太郎は、モーガンについて「米国人通有の性格の内多くの好い部分だけを多く持つ極めて明朗快活な紳士」と讃えています。また、「渡来の初めにおける作品は純米国式」だったけれど晩年は日本の風土を理解し、設計していたとあります。また、略歴中にも「努めて日本の国産品を用いた」ことや「日本の風土伝統を愛好し晩年を楽しんだとあり、日本を愛し、日本の風土に理解を示した外国人建築家として高く評価されています。

モーガンの日本建築への思いを直接的に表現した建築のひとつは紛れもなくその自邸であり、自邸こそ、モーガンの日本時代を代表する建築といえます。残念なことに2度の火災によって、今は大きく損なわれてしまったモーガンの自邸ですが、日本に大きな足跡を残した外国人建築家の自邸という非常に貴重な存在です。モーガン邸が再建されることによって、私たちは、外国人建築家の眼から見た日本住宅の魅力を再発見する機会を得ることになるのです。



関東学院中学本館



旧ペーリック邸（現・ペーリック・ホール）



旧ラフィン邸（現・111番館）



根岸競馬場



松山東雲中学・高等学校正門



東北学院大学ラーハウス 記念礼拝堂

旧モーガン邸を守る会の結成とこれまでの活動

佐藤里紗(旧モーガン邸を守る会)

藤沢市大鋸に1931年(昭和6)頃に建てられた建築家J.H.モーガンの旧邸があります。スパニッシュの要素を取り入れた外観に和洋折衷の室内を持つこの家は、建築家の自邸としてだけでなく、湘南地域に分布する昭和初期の別荘や邸宅の中にあって住宅史的にも文化的にも価値のある建物です。

モーガン亡き後何人かの手に渡りましたが、最後の所有者が負債を抱えたため、株整理回収機構の管理下で債権処理の対象になっていました。

解体される前にせめて記録保存だけでもしようと1999年4月に建築家有志による実測調査が行われました。調査に参加した建築士数人と以前から地元で旧モーガン邸の広大な敷地の緑を守りたいと活動していた市民が出会い、実測調査報告書をもとに説明会を開き、同年11月23日「旧モーガン邸を守る会」を結成しました。それ以来この建物の存在と価値を広め、緑豊かな環境と共に保存し活用したいと願い、署名運動や敷地の草刈り等活動を続けました。6年間の活動が実り、2005年8月に藤沢市と(公財)日本ナショナルトラストによって取得され、復原改修後一般公開されることになりました。

ところが旧モーガン邸は2007年5月、2008年1月と二度の火災に遭い、かなりの損傷を受けてしまいました。しかし、玄関や暖炉、床、地下室などは残っており、修復再生をめざして募金活動「オレンジプロジェクト」を立ち上げました。そして守る会も2008年9月NPO法人として再発進しました。

二度目の火災から12年。旧モーガン邸は保護のための覆い屋の中で再生の日を待っています。その間、創建時のガレージの増築部分を撤去して旧車庫として修復し、活用しています。また、昭和9年製造の深井戸ポンプのある井戸小屋と温室の遺構もあり、昭和初期の邸宅と庭園が一体となった魅力を今も感じることができるのです。

昨年までは、毎月の庭園公開と庭園清掃等で年間1500人ほどの来場者がありました。今年は残念ながらコロナ禍でもあり、多くの皆さんに集まっていただく機会が失われていますが、この場所の歴史と文化を楽しんでいただきながら、再生活用をめざして募金活動を続けています。

守る会では、毎月第三日曜日午前中の清掃活動と清掃後15時までの公開、毎月8日の庭園公開を軸に、旧モーガン邸での活動と他の場所での活動も組み入れながら、「できる人ができる時にできる事を楽しく、無理



庭園コンサート



庭園整備後の様子



モーガンの墓参(横浜外国人墓地)



中門

なく」をモットーに、他団体とのネットワークを活かして活動しています。

約2000坪の庭園は、定例の清掃活動の他、藤沢グリーンスタッフの会や県立藤沢清流高校の地域貢献デーの活動、日本建設業連合会の社会貢献活動の場として等、多くの皆さんのボランティア活動で維持されています。また、庭園で開催されるアートフェスティバルの共催や公開日に行われる庭園コンサートや演劇、植物観察会、草木染ワークショップなど多彩な活用を試みています。

旧モーガン邸以外の場所では、年に一回募金コンサートが続いています。来年3月21日に第18回募金コンサートを予定していますのでお楽しみに。

また同じように歴史的建物の保存活用をめざして活動している団体とネットワークしています。地元藤

沢では「湘南藤沢文化ネットワーク」、湘南エリアでは「湘南邸宅文化ネットワーク協議会」「湘南邸園文化祭連絡協議会」のメンバーとして相互に協力合っています。徒歩10分程の所にある俣野別邸庭園とも連携事業を続けています。

皆様、これから取り組む旧モーガン邸の復元をどうぞ応援してください。



園内図



ヨコハマヘリテイジセミナー2020 ～旧モーガン邸の新たな船出～

このたび公益社団法人横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ)が所有者と調整を行い、旧モーガン邸の再生活用に向けた保護事業に取り組むことになりました。これを広く社会に発信するためにセミナーを開催します。

- ◇日時 2020年(令和2)11月28日(土)
13:30～15:30(13:10開場)
- ◇場所 藤沢商工会館ミナパーク 3階会議室
藤沢市藤沢607-1 藤沢駅北口下車徒歩3分
- ◇定員 66名(99名収容の部屋)
- ◇参加費 一般500円
ヨコハマヘリテイジサポートクラブ会員及び
旧モーガン邸を守る会会員300円
- ◇主催 公益社団法人横浜歴史資産調査会
- ◇共催 NPO法人旧モーガン邸を守る会
- ◇後援 藤沢市教育委員会 ◇協力 横浜市都市デザイン室

プログラム

総合司会：小沢朝江(公益社団法人横浜歴史資産調査会社員・東海大学工学部教授)

開会挨拶：公益社団法人横浜歴史資産調査会 副会長 吉田綱市

趣旨説明：公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事 米山淳一

再建計画調査報告：水沼淑子(公益社団法人横浜歴史資産調査会理事・関東学院大学名誉教授)

旧モーガン邸を守る会のこれまでとこれから：

徳重淳子(NPO法人旧モーガン邸を守る会会長)

(休憩)

シンポジウム『旧モーガン邸再建に向けて皆でエールを送ろう』

コーディネーター 菅 孝能氏(山手総合計画研究所会長)

パネリスト 渡辺剛治氏(NPO法人小田原まちづくり応援団)

鈴木美都子氏(NPO法人ひらつか八幡山の洋館を活かす会)

栗林恵美氏(横浜市緑の協会・俣野別邸庭園園長)

廣田邦夫氏(湘南藤沢文化ネットワーク会長)

総括：後藤 治氏(工学院大学理事長)

開会挨拶：公益社団法人横浜歴史資産調査会



◇申込方法 11月24日までにメールまたはFAXでお申し込みください。

公益社団法人
横浜歴史資産調査会 メール：yh-info@yokohama-heritage.or.jp
FAX：045-651-1730

旧モーガン邸を守る会 メール：1122morganhouse@gmail.com
FAX：0466-88-4388

★新型コロナウイルス感染症予防対策のためマスクの着用をお願いします。

【Report】日本鉄道保存協会・初めてのWEB会議開催

今年度の総会・見学会は10月に宮城県栗原市での開催を予定していましたが、コロナ禍にあり、感染拡大防止のため残念ながら開催を見送りました。総会については、書面総会のかたちをとり、2019年度の決算、事業報告、2020年度の予算、事業計画いづれもほぼ全会員のみなさまから賛成の議決をいただきました。また10月9日には、北海道から九州まで全国約20団体とネットワークをつなぎ、WEB利用による総会報告および情報交換会を開催いたしました。ご参加いただいた会員からは、コロナ禍のご苦労やさまざまな対策をとりながらも前向きに活動をされている様子が報告されました。初めての試みで準備にあたり多くの方々に協力頂きましたこと、御礼申し上げます。来年はぜひ、栗原市で元気にみなさまとお目にかかれることを楽しみにしております。(事務局 河合桃子)

【ヨコハマヘリテイジスタイル 2020秋号】 令和2年11月10日発行

公益社団法人 横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ) 〒231-0012横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405号室

Tel:045-651-1730 mail:yh-info@yokohama-heritage.or.jp

第43回歴史を生かしたまちづくりセミナー ～旧横浜市庁舎の歴史・文化的 価値を探る！～

戦後復興期の1959年から2020年5月まで使われた7代目横浜市庁舎(旧市庁舎)は、建築家村野藤吾により設計されました。村野藤吾とはいかなる人物だったのか、旧市庁舎における設計思想はいかなるものだったのかを紐解き、この建物の歴史・文化的価値を探ります。

- ◇日時 2020年(令和2)12月5日(土)
14:00～16:30(13:30開場)
- ◇場所 横浜市役所1階 市民協働推進センタースペースA・B
- ◇定員 会場参加 40名+オンライン参加 500名
- ◇参加費 無料
- ◇主催 公益社団法人横浜歴史資産調査会 横浜市

プログラム

司会：米山淳一(公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事)

シンポジウム：松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)

吉田綱市(公益社団法人横浜歴史資産調査会副会長・
横浜国立大学名誉教授)

内田青蔵(公益社団法人横浜歴史資産調査会社員・
神奈川大学教授)



◇申込方法 11月13日までに下記WEBサイトよりお申し込み下さい。

当選者には11月20日頃にメールで通知いたします。

JII 神奈川WEBサイト

<http://www.jia-kanto.org/kanagawa/topics/1392.html>

★新型コロナウイルス感染症予防対策のためマスクの着用をお願いします。

「歴史を生かしたまちづくりファンド」に
ご寄附を賜り、ありがとうございました。
(株)三陽物産 代表取締役 山本博士様 100万円

◎ヨコハマヘリテイジへの寄附は、税法上の優遇措置が受けられます◎

歴史的資産の保存活動を推進するために、皆様の寄附をお願いしております。ヨコハマヘリテイジへの寄附は、特定公益増進法人として税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人の場合)、法人税(法人の場合)の控除が受けられます。なお、個人の方からの寄附については、寄附者は確定申告において、所得税の「税額控除」または「所得控除」のいずれかの適用を選択することができます。